

乍提賴光ニ走懸ケル、賴光件ノ大刀ヲ拔テ、牛鬼ノ頭ヲカケズ切テ落ス、略中其形ハ尙破風ヨリ飛出テ遙ノ天ニ上リケリ、今ニ至ルマデ渡邊黨ノ家作ニ破風ヲセザルハ此故也、

〔園太曆〕觀應三年元年文和十月二日、今日聞攝州邊物怒吉良石塔等黨類、已攻入吹田邊之由風聞、天下又騷動歟、

〔太平記〕七 船上合戰事

主上醍醐後隱岐國ヨリ還幸成リテ、船上ニ御座アリト聞エシカバ、國々ノ兵ドモノ馳參ル事引モ

キラズ、略中淺山二郎八百餘騎、金持ノ一黨三百餘騎、大山ノ衆徒七百餘騎、都テ出雲伯耆因幡三箇國ノ間ニ、弓矢ニタヅサハル程ノ武士共ノ參ラヌ者ハ無リケリ、

〔明德記〕上山名播磨守滿幸ハ、分國勢一千七百騎、廿九日年明徳二ノ宵ヨリ峯ノ堂ヲオリ下リ、中略丹後ノ守護代ヲ小葦ノ次郎左衛門尉、同平次右衛門尉、土屋黨ヲ引具シテ、略中方々ノ責口ヘ

思々ニ打立ケリ、

〔富樫記〕去ル長享元年甲戌秋八月上旬ノ比、忝クモ高賴追討ノ宣旨ヲ下サレ、將軍家義尙勅ヲ

蒙リ江州南ノ郡ニ發向ス、御供ノ人々誰々ゾ、武衛細川、畠山、土岐、山名、赤松略中一騎モ不殘打

立リ、

〔相州兵亂記〕箱根早河尻合戰事

搦手ノ軍勢、足柄山ヲ越テ、相州西郡マデ押寄ト聞エシカバ、上杉陸奥守ヲ大將軍トシテ、二階堂

一黨、宍戶備前守、海老名上野介、安房國ノ軍兵ヲ指添テ、西郡ノ敵ニ被押向所ニ、略下

〔江濃記〕雲州佐々木由來有事

昔佐々木四郎高綱略中光明寺と云寺におこなひすましてゐたりしが、略中佐々木黨、此國を知

行する事、むかしより今にたえず、